

せんりひじり幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
6名	20名	24名	125名	150名	160名	485名

運営形態	私立幼保連携型認定こども園	クラス数	18クラス
所在地	大阪府豊中市	構造・規模	RC造3階建他
敷地面積	5944.76 m ²	延べ床面積	3,578 m ²

(平成29年4月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標

「わたし」を大切に思う気持ち。「みんな」を大切に思う気持ち。
 -わたしはわたし でも わたしは みんなのなかのわたし-

施設概要



※図のパフレットより引用



▲建物の外廊下と階段、中庭が有機的に結び付いている。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 十分な広さを有し、サッカーなどの運動ができる人工芝のグラウンドと周囲の幼児の運動機能を育てる固定遊具がある運動場の他、植栽やビオトープを整備した園庭を配置している。
- ・ 一室に保育室面積を70㎡と広くとり、移動式家具を有効に使い子供の状況に応じて、環境の構成を柔軟に行っている。
- ・ 教材の収納に当たっては躯体の厚みを利用した埋め込み式の壁を広く取り、トイレや水回りには一台式の洗面台を年齢に合わせて工夫して配置している。
- ・ 敷地内のエントランスにピロティーと中庭を効果的に配置し、保護者の待機場所や懇談スペースを確保している。
- ・ 創立時以来の樹木をいかながら回遊性のある園舎を整備し、合わせて異学年の保育室を隣接して配置するなど、集団のユニット化を図り相互の関係を深める配慮がなされている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 地域や保護者の子育ての支援の取り組みとして、相談やカウンセリングを受けられる相談室を整備。
- ・ 保護者の保育参加やPTA活動への意識が高く、保護者間の世代間伝承もなされている。
- ・ 幼稚園は全園児が徒歩通園であることから、自転車や自家用車の駐車スペースは広くとられていない。



▲2階庭園(本館2階)
2階、3階からアクセスしやすい配置



▲雨天時にも遊べる園庭前のスペース。



▲遊具「がんばの森」失敗と成功を繰り返しながら子どもがチャレンジする意欲を育てる。



▲夏のメダカ、ヤゴ、冬の氷など四季を感じるビオトープ



▲家具で緩やかに区切られた保育室。



▲家具の高さを低くし、保育者からの視認性と子どもが落ち着く空間のバランスを取っている。



▲読書スペース兼お昼寝スペースの図書室



▲木材がふんだんに使われた多目的ホール。移動式のひな壇により多様な使用が可能。横長で舞台との距離が近い。
※園より提供



▲外部廊下も周遊性をもたせている。

あけぼの幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	15名	90名	90名	90名	285名

運営形態	私立幼稚園型認定こども園	クラス数	11クラス
所在地	大阪府豊中市南桜塚 2-14-7	構造・規模	鉄骨造 4階建
敷地面積	2848,17 m ²	延べ床面積	2168,84 m ² (81,04+543,89+836,49+658,70+48,72)

(平成 29 年 4 月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標

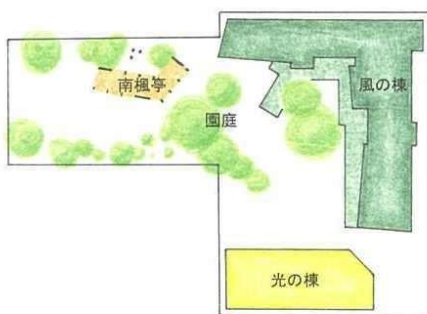
全ての生活から健全な心身を育てる
 全ての生活からよく考える力を育てる
 全ての生活から愛情と自立心を育てる

教育理念

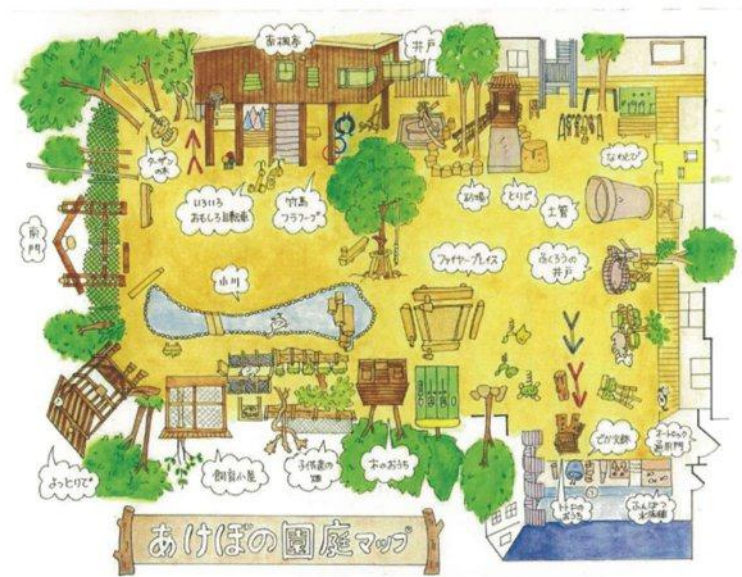
今しかできないこと、今だからできること
 しっかりみつめること、ぎゅっとハグすること
 自分の興味を満喫させて遊ぶこと、思いっきりカラダを動かすこと
 大人みんなで精一杯愛すること、大人も育つこと

施設概要

1954 年創立。1989 年園舎全面改築。
 2007 年預かり保育棟である「南風亭」新築。
 2009 年既存園舎を改修し「風の棟」を新築。
 2018 年 2 月「東の棟」を新築。



配置図



※園のパフレットより引用



▲園庭を一望できる外廊下



▲3階から園庭を眺める



▲樹木やパラソルなどで景観に変化をもたせるとともに、適度な日陰が作られている。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 園庭を囲み3棟の園舎が整備されており、全ての保育室から園庭の樹木を眺めることができる。
- ・ 園庭には、ツリーハウスや保護者の手作り遊具、雨水を利用した井戸、園舎ピロティ部分のアスレチック風遊具で様々な身体の動かしかたを誘発する仕掛けになっている。
- ・ 多様な形状の保育室に移動可能な家具と教材を配置し、幼児が主体的に興味を持った対象への関われる環境になっている。
- ・ 保育室の床は1階がナラ（一番固い）、2階がクルミ（暖かい）、3階がタモ（一番暖かく、クッション性がある。床暖なし）と用途によって使い分けられている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 幼稚園に付設された0～2歳児対象の保育園と連携・交流しており、保育園修了後は幼稚園型認定こども園である幼稚園に入園可能な体制を整備している。
- ・ 通園バスは運行しているが、半径1km以上に居住している場合のみの利用に制限している。保護者の多くは自転車や徒歩で通園しており、駐輪場を確保している。
- ・ 保護者はエントランスを通り園庭から各保育室へ進み、子供の送迎を行っている。園庭は、降園時には、子供の様子を見ながら、大人が懇親できる場としても機能している。



▲園庭内には様々な遊具や仕掛けがあり、子供たちが思い思いに遊び込んでいる



▲子供が自分たちで遊び方を考えられるような遊具を置いている。



▲1階にある保育室



▲2階以上の保育室の床は1階と異なる木材を使用し、暖かみを肌で感じられるようなしつらえとしている。



▲読書スペースでは落ち着いた環境で本に親しむことができる。



▲フロア中央に配置された教員スペース



▲デッドスペースを倉庫として活用。



▲体育館

認定こども園 Kids まゆみ

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
26名	33名	33名	35名	35名	35名	197名(定員)

運営形態	幼保連携型認定こども園	クラス数	6クラス
所在地	大阪府和泉市	構造・規模	鉄骨造 2階建
敷地面積	4,229.96 m ²	延べ床面積	1,224.44 m ²

(平成 29 年 4 月現在)

園の教育方針・特色等

保育目標

- 子供自身が自ら学ぶ力をつけること
- 自己肯定感を持つこと
- コミュニケーション力を持つこと

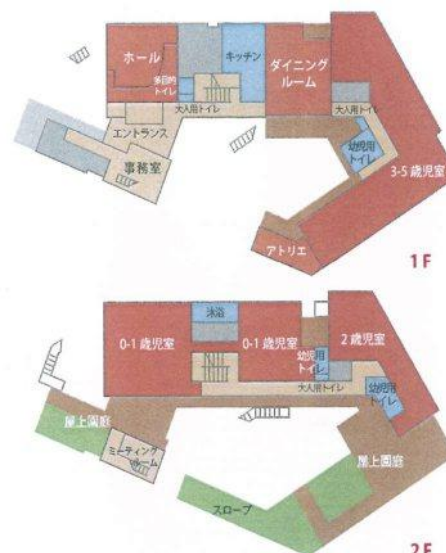
理念

幼少期は人としての基盤、基礎を作る大切な時期です。しっかりとした心の土台が作られるよう、自分でみつける遊びや豊かな体験を通して、決して詰め込み教育を通してではなく、自ら考えられるような環境を設定し、本当の意味での生きる力がもてる子どもを育てていきます。そして、子どもたちにとって本当に大切なものは何かを求め続けていきたいと思っております。

施設概要

- 1981 年社会福祉法人慈泉福祉会 和泉まゆみ保育園として開設。
- 2003 年隣地に別棟整備。
- 2015 年 4 月幼保連携型認定こども園 Kids まゆみとなる。
- 2016 年全面改築により新築整備。
- 0~6 歳利用で幼稚園部分 (内 1 号認定子ども 6 名)

平面図



※園のリーフレットより引用



▲エントランスは壁一面が黒板仕様。



▲保育室は家具を活用して、様々なコーナーを作っている。



▲0・1 歳児の保育室

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 限られた敷地の中での、子供の体力向上を考えた結果、高低差をつけた広いスロープを設置し、様々な方向から2階や園庭に行けるようになっている。屋上庭園を利用して、2階の0-2歳児もすぐ外へ出て遊べるようになっている。
- ・ 保育室内にも、高低差やロープやネットなどで上り下りできる仕掛けがあつて、幼児が知らず知らずに身体を動かす工夫が見られる。
- ・ 食事室の園庭側の開口部は全面開閉が可能で、テラス空間となり屋外と屋内の親和性を高めている。
- ・ 学齢ごとに視認性の高い保育者の作業スペースを確保し、午睡中の事務作業や教材準備に有効に機能している。
- ・ ホールはスキップフロアーで子供の腰掛けをコロセウム型に確保しながら、椅子などの収納スペースとなっている。
- ・ 教材室も開口部を広くとることで大型の遊具の出し入れも容易にしている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 卒園生の水田の一角を借りて、イネの栽培もしている。
- ・ 相談室を設け、保護者の相談時に対応している。



▲限られた敷地の中で、子供が体を動かせる環境をつくるため、1階の中庭からスロープを通じて屋上庭園へ園庭がつながっている。



▲中庭に設置された遊具



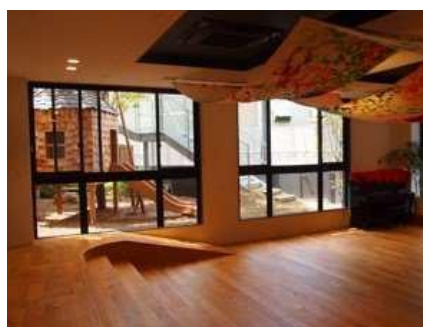
▲吹き抜けのある事務室の上階に設けられたミーティングルームは職員の打合せ等に活用されている。



▲オープンキッチンのダイニングルーム、建具を開放することによりテラスと一体になる



▲事務室



▲多目的ホール、段差は幼児用イス 兼 大人用パイプイス収納BOXになっている。



はまようちえん

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3・4・5歳	計
3名	12名	15名	27名、26名、27名、28名、27名、28名、28名	221名

運営形態	私立幼保連携型認定こども園	クラス数	10クラス（3～5歳児は異年齢構成）
所在地	兵庫県尼崎市	構造・規模	木造2階建、木造3階建、鉄骨3階建
敷地面積	1,714㎡	延べ床面積	1,331㎡

（平成29年12月現在）

園の教育方針・特色等

教育目標

たくましく生活できる子ども みんなと仲良く遊べる子ども 心豊かな創造性を育てる

教育理念スローガン

わたしになる。ぼくになる。（あるがままを許容し、子どもたち一人ひとりが持っている「らしさ」を引き出し、自己肯定感を持てる人になる）

施設概要



▲起伏に富んだ中庭



▲樹木やテントで適度な日よげが設けられている。



▲起伏を生かした遊具

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ ミーティングルームの壁は一面ホワイトボードで、話し合いを円滑に進められるような工夫がされている。
- ・ 自園調理の和食メインの給食である。給食の時間に、管理栄養士が当日使う野菜などの説明をする出前トークがある。
- ・ モーニングテラスキッチンで、旬の食材を用いて子供たちと調理して食べる。
- ・ 保育室は、間をロールカーテンで仕切るだけのオープンなスタイルで、縦割り保育。バディを決めて、年上の子供が年下の子供の世話をする。
- ・ 室内では上靴は履かず、子供は裸足で行ったり来たりしている。
- ・ 園庭は起伏のある形状と雨水を利用した手漕ぎポンプを活用したあそび場を中心に構成して固定遊具は設置していない。
- ・ 広い平地の前庭、起伏のある中庭それぞれの特徴を生かし、様々な屋外活動を行える環境としている。
- ・ 畑やピザ窯は、食育に効果を発揮している。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ コミュニティ・カフェ&ブックスがあり、本格的な焙煎からのコーヒー、ビールを飲みながら本が読める。1週間に1回開店とし、ルールを定めて一般開放している。幼稚園保護者がボランティアで参加。月1回は「はまバル」と称して町内の老人会が開かれる。
- ・ 保育棟の1階はコミュニティカフェ兼図書館となっており、有志の保護者などにより運営されている。3階には親子ひろばを常設し地域の子育て支援の拠点となっている。
- ・ 地域の保護者対象の子育てサークルやワークショップ、講演会などを積極的に実施している。



▲新館のエントランス、1階は厨房。



▲手作りのピザ窯



▲読書&喫茶スペース、ルールを設けて一般開放も行っている



▲エントランス、ぶら下がっているのはタマネギ



▲新館の最上階にある多目的室、テラスと一体に使用可能



▲廊下から保育室への入口はクラスごとになっている。



▲子育ての支援として親子広場を常設している。



▲保育室は3室が一体となっている

認定こども園さざなみの森

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
3名	12名	15名	79名	81名	77名	267名

運営形態	私立幼保連携型認定こども園	クラス数	13クラス
所在地	広島県東広島市	構造・規模	鉄筋コンクリート造・木造 地下1階地上2階建
敷地面積	8,573.06 m ²	延べ床面積	2,039.70 m ² (788.85+352.35+446.9+334.46+117.14)

(平成 29年 8月現在)

園の教育方針・特色等

さざなみの森で育つ子ども像

「さざなみ」のようにキラキラ輝く子どもたちを目指し、「自ら考え、自ら動き、自ら育つ」ことを大切にしている。

さざなみの森の保育

子どものもつ力を信じ、待つ “啐啄同時（そったくどうじ）”
保育者は、子ども自らが持つ力を発揮できるように、支援することを心がけている。

施設概要

- ・田園の広がる里山環境で、遊びを中心とした保育を、起伏のある地形を生かした園舎、園庭、周辺環境でおこなっている。

さざなみ幼稚園 昭和 54.4

さざなみ保育園 平成 23.4

施設面積 2,039.70 m²

光の棟 788.85 m²

風の棟 352.35 m²

響の棟 446.90 m²

水の棟 334.46 m²

吹の棟 117.14 m²



▲里山のエッジに建つ園舎



▲自然の起伏を生かした園庭



▲園庭の段差を利用した三段砂場で遊ぶ

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 園舎、園庭だけでなく、里山の周辺環境も含めて保育の環境として考えているため、里山に近接した立地とし、園舎・園地から見える里山風景を大切に、起伏のある地形を生かした建築としている。
- ・ 里山の広場、水田での米づくり、水路の川遊び、畑での果樹栽培、地域の協力者による伝統行事、近隣の農家のヤギやニワトリとの触れ合い、自然探検、など、園から連続した自然豊かな周辺の里山環境を活用。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 保護者の学びや交流の場として、カフェのような子育て支援室やギャラリーを設置。その他、保育士以外にコーディネーターを設ける等、子供だけでなく、保護者や地域の協力者を巻き込んだ「場づくり」「施設づくり」「機会づくり」を行っている。
- ・ 現役を引退した大工を雇用し、園内に作業場を設ける事で、子供が目の前で補修作業や製作過程を見ることが出来る環境を作っている。



▲ウッドデッキが保育室と園庭を繋ぐ装置となっている



▲ウッドデッキは子どもが過ごす日常空間



▲ウッドデッキから見渡す園庭



▲木材を多用した保育室



▲午後の時間異年齢で遊ぶ大きな保育室



▲遊びに集中できる家具で区切られたコーナー



▲地形の起伏を生かした保育空間



▲舞台としても使用できるプレイデッキ



▲豊かな自然に面した半屋外空間



▲保護者もスタッフも集える子育て支援スペース (カフェ)



▲みんなの部屋 (子どもたちとスタッフの共有スペース)



▲みんなの受付 (事務室)

福岡教育大学附属幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	-	20名	16名	14名	50名

運営形態	国立大学法人附属幼稚園	クラス数	3クラス
所在地	福岡県宗像市	構造・規模	RC造1階建
敷地面積	約10,760㎡	延べ床面積	656㎡

(平成29年12月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標

豊かな心を持ち、自己を十分に発揮し、心身の調和のとれた発達と生きる力の基礎を身につけた幼児の育成

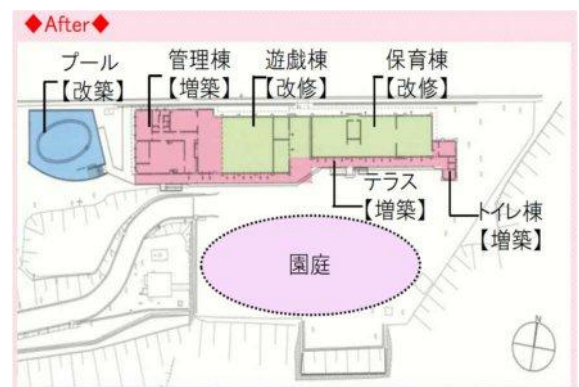
めざす幼児像

基本的な生活習慣を身につけた幼児
思いやりのある幼児
最後まで頑張る幼児

表現力のある幼児
創造力の豊かな幼児
探究心や思考力の豊かな幼児

施設概要

昭和47年と59年に建てられた園舎を平成25年に改修及び一部増改築。
保育A棟と管理棟を解体撤去し、広々とした園庭を実現。



※園のパフレットより引用



▲園舎と園庭をつなぐテラス



▲半屋外空間のエントランス、向かって右側が図書コーナー、左側が保育室



▲保育室から独立して設けられた 図書コーナー



▲広々とした園庭



▲保育室は隣室とつながっている。



▲幼児用トイレ

幼稚園施設整備指針の対象施設の考え方

幼稚園施設整備指針は、幼児教育を進める上で必要な施設機能を確保するための計画及び設計の留意事項がとりまとめられている。

その上で、満3歳未満の園児が在籍している場合の留意事項についても補完的に記載されている。

【参考】認定こども園の概要

「認定こども園」とは

教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設です。以下の機能を備え、認定基準を満たす施設は、都道府県等から認定を受けることができます。

- ①就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能
- ②地域における子育て支援を行う機能

認定こども園の類型

幼保連携型

幼稚園的機能と保育所的機能の両方の機能をあわせ持つ単一の施設として、認定こども園としての機能を果たすタイプ。

幼稚園型

認可幼稚園が、保育が必要な子どものための保育時間を確保するなど、保育所的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たすタイプ

保育所型

認可保育所が、保育が必要な子ども以外の子どもも受け入れるなど、幼稚園的な機能を備えることで認定こども園としての機能を果たすタイプ

地方裁量型

幼稚園・保育所いずれの認可もない地域の教育・保育施設が、認定こども園として必要な機能を果たすタイプ

出典：内閣府 HP より文部科学省作成

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議設置要綱

平成29年2月20日
大臣官房長決定
平成29年5月10日最終改訂

1 趣旨

近年の社会変化に対応するため、今後の学校施設の在り方及び指針の策定に関する調査研究を行う。

2 調査研究事項

- (1) 今後の学校施設の在り方について
- (2) 学校施設整備指針の策定について
- (3) その他

3 実施方法

- (1) 別紙の学識経験者等の協力を得て、2に掲げる事項について調査研究を行う。
- (2) 本協力者会議に主査及び副主査を置き、事務局が委嘱する
- (3) 本協力者会議の下に、部会を置くことができる。
- (4) 必要に応じ、(1)の学識経験者等以外の関係者にも協力を求めることができる。

4 実施期間

平成29年2月1日から平成31年3月31日

5 その他

- (1) 本協力者会議に関する庶務は、大臣官房文教施設企画部施設企画課において処理する。
- (2) その他本協力者会議の運営に関する事項は、必要に応じ別途定める。

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議委員

氏名	職名
○天 笠 茂	千葉大学教育学部特任教授
五十嵐 智 浩	公益社団法人日本PTA全国協議会理事
伊 藤 俊 介	東京電機大学情報環境学部教授
岩 井 雄 一	社会福祉法人せたがや檜の木会理事長
岩 崎 元	成田市立向台小学校教頭
◎上 野 淳	首都大学東京学長
片 田 敏 孝	東京大学大学院情報学環特任教授
工 藤 和 美	東洋大学理工学部教授
斎 尾 直 子	東京工業大学環境・社会理工学院建築学系准教授
志 村 秀 明	芝浦工業大学建築学部建築学科教授
高 際 伊都子	学校法人渋谷教育学園渋谷中学高等学校副校長
田 原 優 子	佐賀県多久市教育委員会教育長
○長 澤 悟	東洋大学名誉教授
中 埜 良 昭	東京大学生産技術研究所教授
野 中 陽 一	横浜国立大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻専攻長・教授
野 本 宏 一	川崎市教育委員会事務局教育環境整備推進室長
樋 口 直 宏	筑波大学人間系教育学域教授
山 重 慎 二	一橋大学大学院経済学研究科教授
山 下 文 一	松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科学科長・教授

(以上19名, 五十音順, 敬称略)

(◎: 主査, ○: 副主査)

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議特別協力者

氏名	職名
磯 山 武 司	国立教育政策研究所文教施設研究センター長
屋 敷 和 佳	国立教育政策研究所教育政策・評価研究部総括研究官

(以上2名, 五十音順, 敬称略)

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議
幼稚園施設部会の設置について

平成29年3月23日
学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議決定

今後の幼稚園施設の在り方及び幼稚園施設整備指針の策定について、具体的・専門的な検討を行うため、「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」（以下「協力者会議」という。）に以下のとおり、幼稚園施設部会（以下「部会」という。）を設置する。

1. 検討事項

- (1) 幼稚園施設整備指針の改訂案について
- (2) 幼稚園施設に関する事例集の作成について
- (3) その他

2. 実施方法

部会は、別紙の学識経験者等により構成する。なお、必要に応じ、他の学識経験者等にも協力を求めることができる。

3. 実施期間

平成29年4月1日から平成30年3月31日までとする。

4. 協力者会議への報告

部会は、検討状況を適宜、協力者会議へ報告するものとする。

5. その他

部会に関する庶務は、大臣官房文教施設企画部施設企画課において処理する。

**学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議
幼稚園施設部会委員**

氏 名	職 名
浅井 靖弘	大垣市子育て支援部子育て支援課長
東 重満	学校法人東学園 美晴幼稚園 理事長・園長
新山 裕之	全国国公立幼稚園・こども園長会 副会長 港区立青南幼稚園長
木下 勇	千葉大学大学院園芸学研究科 教授
倉斗 綾子	千葉工業大学創造工学部デザイン科学科 准教授
○長澤 悟	東洋大学名誉教授
日比野 拓	株式会社日比野設計 代表取締役社長
松村 和子	文京学院大学 副学長, 人間学部児童発達学科 教授
山下 文一	松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科 学科長・教授

(以上9名, 五十音順, 敬称略)
(○: 部会長)

幼稚園施設部会特別協力者

氏 名	職 名
磯山 武司	国立教育政策研究所文教施設研究センター長

(以上1名, 敬称略)

「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」
検討の経緯

- 【調査研究協力者会議（第1回）】
平成29年2月20日 今後の学校施設の在り方について 等
- 【調査研究協力者会議（第2回）】
平成29年3月23日 今後の学校施設の在り方について 等
- 【幼稚園施設部会（第1回）】
平成29年5月26日 今後の幼稚園施設の在り方について 等
- 【幼稚園施設部会 現地調査】
平成29年8月 先進事例等の現地調査
- 【幼稚園施設部会（第2回）】
平成29年9月6日 現地調査報告 等
- 【幼稚園施設部会（第3回）】
平成29年11月8日 改訂の基本的考え方の検討
- 【調査研究協力者会議（第3回）】
平成29年11月16日 改訂の基本的考え方の検討
- 【幼稚園施設部会（第4回）】
平成29年12月25日 報告書案の検討
- 【幼稚園施設部会（第5回）】
平成30年1月29日 報告書案とりまとめ
- 【調査研究協力者会議（第4回）】
平成30年2月15日 報告書とりまとめ

これからの幼稚園施設の在り方について

～幼児教育の場にふさわしい豊かな環境づくりを目指して～

幼稚園教育要領の改訂、社会状況の変化等に対応するため、「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」(主査:上野淳 首都大学東京学長)においてこれからの幼稚園施設整備の在り方と幼稚園施設整備指針の改訂案をとりまとめ(平成30年3月)。

<学校施設整備指針とは>

学校教育を進める上で必要な施設機能を確保するため、施設計画及び設計における留意事項を学校種ごとにまとめたもの。

報告書の概要

第1章 幼稚園施設整備指針改訂の背景

- ・社会的状況の変化(少子化の進展、公共施設の老朽化等)
- ・幼稚園施設をとりまく状況の変化(幼稚園数の緩やかな減少、施設の深刻な老朽化等)
- ・幼稚園教育要領の改訂(育みたい資質・能力の明確化、主体的・対話的で深い学びの実現等)

第2章 これからの幼稚園施設整備の在り方

- **現行の幼稚園施設整備指針に記載された基本の方針及び基本的留意事項は、これからの幼稚園施設の在り方を考える上で、引き続き重要。**
- その上で、幼稚園施設をとりまく状況の変化等を踏まえ「幼児教育の場にふさわしい豊かな環境づくり」「幼児教育の担い手を支え、家庭や地域と連携・協働を促す環境づくり」「その他の施設配慮」の観点から、これからの幼稚園施設の計画及び設計における**留意事項として充実が必要な7つの視点と幼稚園施設整備指針の改訂内容**を提示。

<幼児教育の場にふさわしい豊かな環境づくり>

- ① 幼児自身の興味や関心に応じて様々な活動が展開される屋内環境整備
▷ 本に親しむ、見て触れて素材の良さや違いを感じることができる施設環境等
- ② 自然との触れ合いや体を使った遊びができる屋外・半屋外環境整備
▷ 自然の中にある音、形、色等に気付くことができる空間づくり等
- ③ 障害のある幼児など特別な配慮を必要とする幼児に対応した施設整備
▷ スロープや手すり、便所のバリアフリー対応等

<幼児教育の担い手を支え、家庭や地域と連携・協働を促す環境づくり>

- ④ 教職員の活動を支えるための施設整備
▷ 職員室を情報交換の場として充実、休憩室をリフレッシュの場として計画等
- ⑤ 家庭や地域等との連携・協働を促す施設整備
▷ 近隣住環境に配慮した配置計画、通園路を様々な体験の場として設定等

<その他の施設配慮>

- ⑥ 安全を確保しつつ自発的な遊びを誘発する施設整備
▷ 主体性を引き出しながら遊びを通して危険を回避する力を身に付ける環境づくり等
- ⑦ 教育活動の変化に対応できる施設整備
▷ 教育活動の変化や園児の生活習慣の違い等に柔軟に対応できる計画等

第3章 幼稚園施設整備指針の改訂案

参考資料

現地調査概要(幼稚園(7)、幼保連携型認定こども園(6))等